

博文庫

六八二

2944  
2

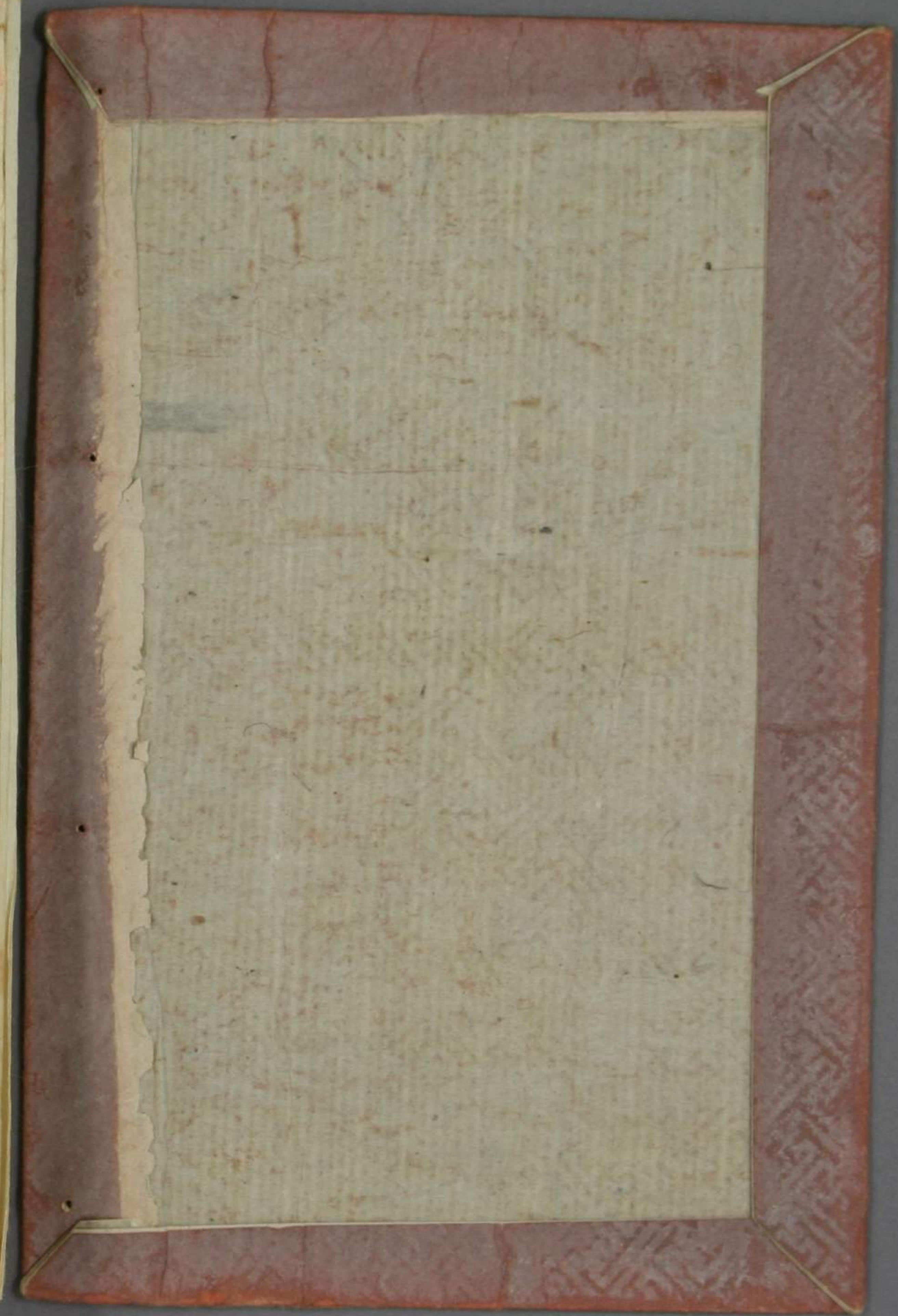


1402

樂遊  
八目

新文藝四編上

昭和九年  
七月九日  
購末



へ13  
2944  
2

釋迦あま

八相はつさう

倭文庫四編上やまとぶんこよんしん

春新板

万亭應賀作

一陽齋豊國画



上州屋重藏板

貝園画

倭やまと

文ぶん

庫く

四編よんぺん



万亭應賀作  
一陽齋豊國画

上州屋板

世二陽齋豊國画



下

倭文庫四編

万亭應賀作



錦重堂梓

應賀作  
豊国画

表彩板

庄満堂

ぬむよ四八下

人形町通

上杉屋板



西門人  
國更包

一  
釋迦八相倭文庫四編の叙  
夫天の命さる二五の性理精きと受て生るの人也性  
理偏氣小理まて生るのの畜類也性理幽微るると受  
て生るのの草木也されその性理の精きと受て生る中  
猶貴は賢仙と望太子の九歳七也て小弓の勝負と  
あひ大悪無双の従弟る提婆達と拵ひて終小射勝玉  
いしより提婆達の意根の始め叔太子九也ふし初学乃  
師を背頭賢弄の院(迂)回書鱗馬虎頭の筆勢皆流  
通あるゆふしとあつるもあやると冬経能する此草冊子何  
卒梅小先立て評判あうんとと其ふと爾云

弘化三年丙午春新版

万亭應賀述













とこのあゝ  
つれづれの  
とやうな  
ものか  
あつた  
てしな  
するは  
大い  
せつ  
られ  
方



木  
中

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

女中  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

木  
中







あつた... 世の... 人右と

あつた... 世の... 人右と



あつた... 世の... 人右と

あつた... 世の... 人右と

あつた...



あつたてふのめとふ上りての世を  
かゝるの世にふ天卜をんんの  
つとてふりてふ世のあんとつた  
まま世とふ世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた

あつたてふのめとふ上りての世を  
かゝるの世にふ天卜をんんの  
つとてふりてふ世のあんとつた  
まま世とふ世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた



あつたてふのめとふ上りての世を  
かゝるの世にふ天卜をんんの  
つとてふりてふ世のあんとつた  
まま世とふ世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた

あつたてふのめとふ上りての世を  
かゝるの世にふ天卜をんんの  
つとてふりてふ世のあんとつた  
まま世とふ世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた  
うらみの世のあんとつた

天竺人傳四

九















源次郎

まじりておどろくやうな  
まじりておどろくやうな  
まじりておどろくやうな

スリガ  
のうた  
おとけ  
おとけ  
おとけ



丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて

丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて

丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて  
丸かぶりけだをうけて

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが

丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが  
丸かぶりのあれが









木女入車





一陽齋豊国画○万亭應賀作○

此画は  
 万亭應賀作  
 一陽齋豊国画  
 此画は



此の如くは  
 万亭應賀作  
 一陽齋豊国画  
 此画は

五編六八七八  
 五編六八七八  
 五編六八七八

Handwritten calligraphy in the upper right of the left page:

かま  
 文彦  
 五編

Handwritten text in the upper left of the left page:

弘化四年  
 丁未冬新板

Red seal impression:

上皇様



釋迦八相倭文庫五編上

弘化四年未春新版

元大坂町代地

上洲屋重藏板

万亭  
應賀作  
一陽齋  
豊國再



万亭應賀作



陽齋豊國画

下



丁未春  
新板

依女文庫五編

櫻

錦車堂梓

上

春海堂の巻二

みゆじん下



春海堂

新編



應賀作

春海堂



人形早通

上巻巻板



釋迦八相倭文庫五編の叙  
 夫大盡の大蔽顔の悪むべし味増汁のみそ臭の嫌ふ下  
 佛身の仏臭の厭むべし何ぞ當世の大看官の浮世ふつて  
 堂宮詣の晴小袖も恋七分で劇場が二分持一分が免れ  
 仏心され此冊子の巻もその縁の綱小疋と合附仏の香  
 幽小きて貴意小合めて賣るが徳と更小大人佛者の  
 誹謗と戦いも釈迦牟尼佛の名を汚し未未ら  
 猶極楽へ行きて地獄の呵責を受まるとも穢土へ無  
 跡ふとび色と酒との敵小遇とあらば其も亦予本望  
 ならんを怯ぬ顔あつ云々あり

弘化四丁未年初春發市

万亭應賀識



倭文庫五

倭文車五



摩偈國の魔王法性妙頭

優陀夷臣



提婆達多  
魔界外道  
疾鬼とかさ  
采心達太子と  
妨ん  
とま

優陀夷の  
女房

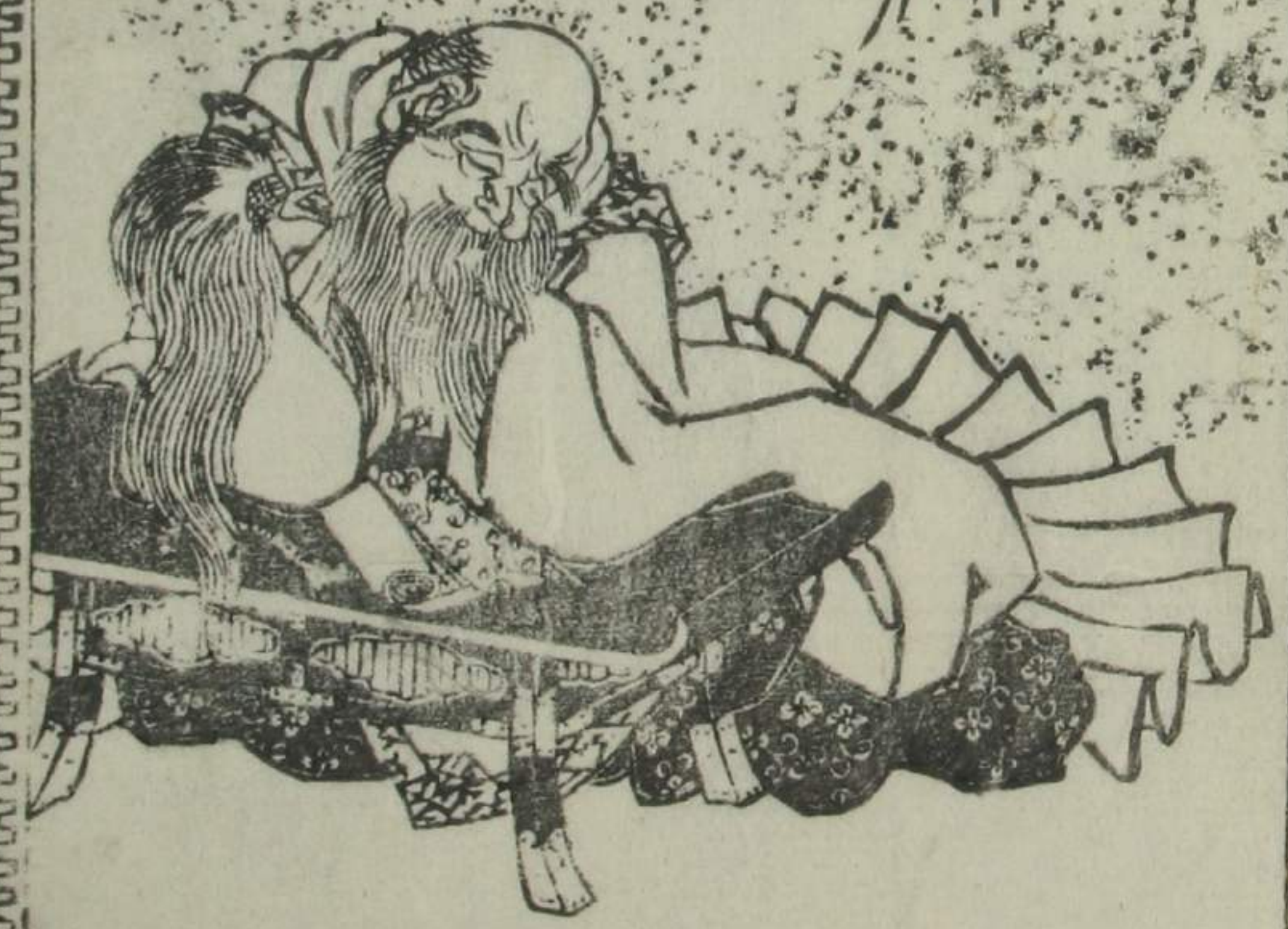
悉達太子

作之屋五

悉達太子  
學文の師  
鬱頭督弗



激肆の控君  
婆須密  
妻女



南海國那羅城  
展マカ玉の皇子  
展紹太子諸國  
と修行を









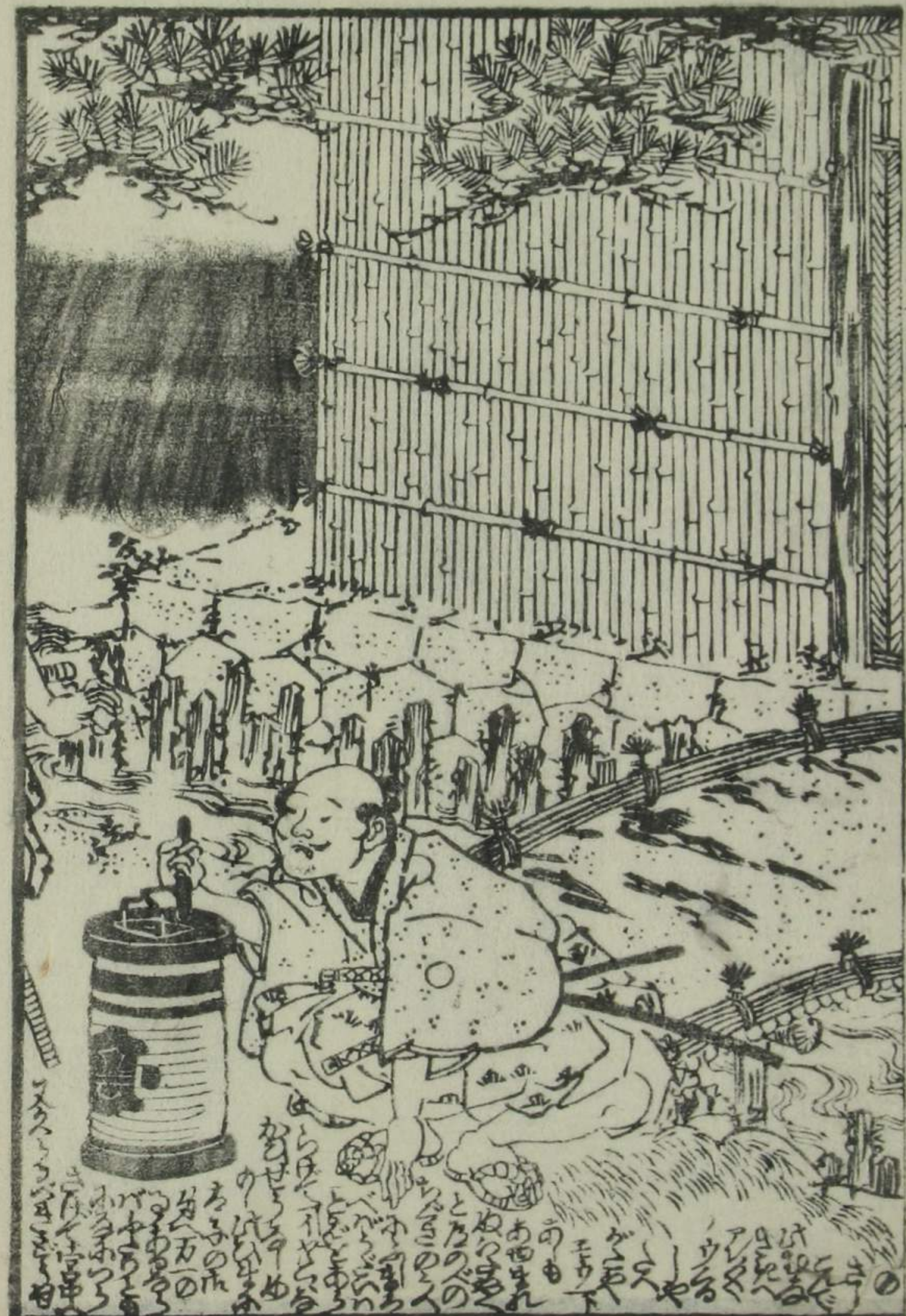
男のうしろかたに  
 つまひつりつら  
 うつふつと下り  
 あざむいたまふ  
 上をのりてふり  
 やむことぞし  
 つるまはしや  
 女房にさし  
 ぬふりてし  
 ささすまひさ  
 びあはれうら  
 めかかひつら  
 これゆもま  
 りてしこふ  
 ちぢぬふり  
 りてふりて  
 づふふの  
 づふふの  
 うらふら  
 かるふら  
 とこのま  
 たるふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら

女房にさし  
 ぬふりてし  
 ささすまひさ  
 びあはれうら  
 めかかひつら  
 これゆもま  
 りてしこふ  
 ちぢぬふり  
 りてふりて  
 づふふの  
 づふふの  
 うらふら  
 かるふら  
 とこのま  
 たるふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら

女房にさし  
 ぬふりてし  
 ささすまひさ  
 びあはれうら  
 めかかひつら  
 これゆもま  
 りてしこふ  
 ちぢぬふり  
 りてふりて  
 づふふの  
 づふふの  
 うらふら  
 かるふら  
 とこのま  
 たるふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら

女房にさし  
 ぬふりてし  
 ささすまひさ  
 びあはれうら  
 めかかひつら  
 これゆもま  
 りてしこふ  
 ちぢぬふり  
 りてふりて  
 づふふの  
 づふふの  
 うらふら  
 かるふら  
 とこのま  
 たるふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら  
 うらふら









ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま

ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま

ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま



ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま

豊国画 應賀作



ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま

ついでに  
 たんとありの  
 せがわの  
 みるひ  
 りやちの  
 あやまちの  
 ありや  
 うとちの  
 こころの  
 せそで  
 せそで  
 いま  
 ついて  
 いま  
 いま  
 いま  
 いま



山崎のふもとに

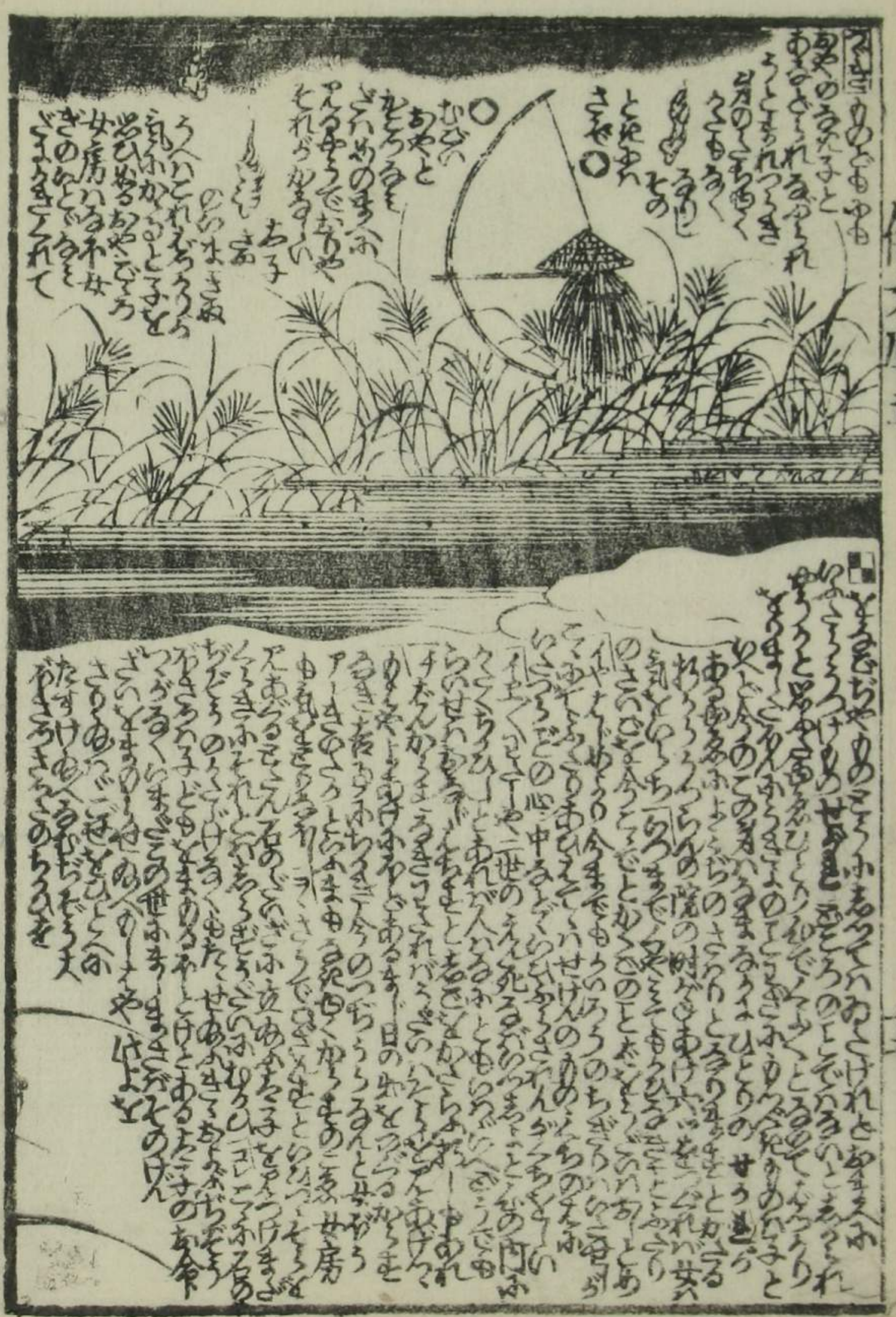


山崎のふもとに



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの















大坂の陣



大坂の陣



一陽齋豊国画の万亭應賀作

此の巻は... (Vertical text describing the scene or the artist's intent, written in a calligraphic style.)



弘化四年  
丁未春新詠  
六編

万亭應賀作  
一陽齋豊国画

上重梓



天亭應賀作  
一陽齋豐國画



倭文庫六編



應賀作 赤い書 貝國政

豊國画 新板

屋

人形所通り 上列屋板

女

小

六編下



徳

釋迦八相倭文庫六編之序  
却説も天上の浄居佛と悉達太子  
着して諸佛の本願と忘鉄せん乎と疑ひ或は病  
者或は死者と貌を變ト一ニ回來りてこれを試  
小物ニ擬へ事小摸て修行の翁と二役兼麻の詞  
那摩國王の愛女と馬將軍の嬢小苟且の仮の浮  
世の假字章も思ひの外小行はるれば氣ハ張弓の鳴  
許さすくも看官の的と狙ひ予が戲意も已了六編  
元これまでも通し失の當る今春此板の内評判を其の

弘化四年初春

万亭應賀誌

〇

倭文庫六



摩訶那摩國王の息女  
鹿野女馬將軍の嬢也



月景殿轎日雲  
弥の方附役  
馬將軍

轎曇弥の方  
心を込めて  
賜ふ

命婦



大い憂  
臣

太子

水戸黄門



轎曇弥の方

水戸黄門



































大正十一年









